

第3回報告

<p>テーマ</p>	<p>「多様な性ってなんだろう？」 ～ L G B T 入門～</p>	
<p>日時</p>	<p>平成 26 年 9 月 6 日（土曜日） 午後 2 時から 4 時まで</p>	
<p>場所</p>	<p>尼崎市女性センター・トレピエ</p>	
<p>講師</p>	<p>一般社団法人 L G B T 政策情報センター代表理事 尾辻 かな子さん</p>	
<p>参加者</p>	<p>33名</p>	
<p>事業の目的 協働の相手方</p>	<p>L G B T（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）をはじめとするセクシュアルマイノリティが、差別や偏見にさらされることなく当たり前に生きていける社会の実現に向け、互いのあり方を尊重する重要性について考えることを目的に実施しました。</p> <p>なお、女性センター・トレピエと共催し開催しました。</p>	
<p>実施内容</p>	<p>「L G B T とは何？」から始まり、日本の政策の変化や子どもたちを含めた当事者が抱える問題、カミングアウト（自分が少数者の立場であることを告白すること）などわかりやすくご説明していただきました。</p> <p>「L G B T」とはレズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（生まれた時の「体の性別」と自覚する「心の性別」が一致しない人）を指す言葉です。</p> <p>講師は、人の数だけ「性」にも違いがあり、もっと当たり前のこととして考えていかななくてはならないこと、しかし現実には「世間から冷たい目で見られるのではないか。」「家族に迷惑がかかり友だちを失うことにならないか。」などという不安があり、当事者がカミングアウトする上でのリスクを述べられました。また、カミングアウトを受けたときは「孤立させないこと。」「アウティングは十分に注意すること。」など、相談を受ける姿勢が大変重要となることを併せて述べられました。</p> <p>そして、最後は「一人ひとりが大切な存在」という言葉で締めくくられました。</p>	

<p>参加者からの感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性的な少数派は、決して特別なことではなく、まずは知ることが第一歩だと考える。講演を聴き、少数派と言われる方々が生きやすい社会は全ての人にとって生きやすい社会につながるのではないかと感じた。 ・ 無関心ではなく、わかりあい・認め合うことができる社会、社会が変われば不安に感じ、当事者が自分のことを隠すことはなくなるのではないかと思った。 ・ 本当はとても身近な問題であるのに、“遠くて見えない”問題だと感じた。「隠す社会から語れる社会」は、人権社会のキーワードだと改めて感じた。人権意識を高め、人権感覚を磨く、じんけんスタディツアーの取り組みに拍手！ ・ L G B T 家族と友人の会で参加した時、尾辻孝子(講師の母)さんをお見かけした。今回、基本のこともしっかりと確認できて良かった。全てを当事者から聞くことができたこの機会に感謝します。 ・ 実体験にもとづく内容が大変わかりやすかった。講師にはこれからも様々な場所で講演していただき、L G B Tの方が生きやすい世の中になってくれたらと願う。 ・ 大変有意義な2時間であった。 ・ 自分に何ができるか、人の話をしっかりと受け止めることができる人でありたい。
<p>成果</p>	<p>本事業をきっかけに、平成26年9月17日、国際人権 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチのボリス・ディトリッヒ氏と他2名が尼崎市役所に表敬訪問され尼崎市長と意見交換を行いました。ディトリッヒ氏はヒューマン・ライツ・ウォッチの LGBT の権利を守るアドボカシー活動の先駆者として性的指向及び性自認に関する問題を前進させるため世界各国を歴訪しておられます。</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性センター・トレピエとの共催事業につき一時保育利用の受入体制を敷いた。